

英語について

第2言語として外国語を学ぶにあたっては、文法理解について曖昧な点を残さないことが重要です。暗記の必要はもちろんありますが、発音、スペリング、例文からの応用、という3つを繰り返すことで、その点については早期であればある程に効率よく、盤石に身に着けることが可能です。

日本語を母国語とする生徒さんに、何をどのように伝えれば理解がしやすいか。中・高生英語指導の経験をもとに、最善の方法で中学でのスタートをサポートします。中学で学習する文法事項は非常に重要、高校で新たに習う内容は中学での内容を基礎とした上乘せになりますので、“苦手”を引きずることのないよう、理解を固めます。

国語について

中学で学習する文法事項は、英語と同じく高校以降の欠かせない土台です。また、文章読解に際しては正確性・客観性の強化、また、日本語力としての語彙力強化、そして使用するべき箇所を見極め、適切に文章を構成することの出来る記述力の養成、主にこの3点が軸となります。

計画的に、目的・効果を明確にした上で文章を読み、問いに答えさせていくことが必要です。大雑把に量を読みこなすのではなく、良問を精選し、確実にポイントを伝え、反復でそのポイントを自ら活用できるレベルにまで育てます。

数学について

方程式、一次・二次関数、平面図形と空間図形、確率の計算。中学での学習内容はいずれも導入の仕方が鍵、“分かる”“面白い”という感覚をその段階でつかむことさえ出来れば、その先の応用問題にも無理なく挑戦することが可能です。生徒さんの適性、理系・文系どちらに向くのか、という点を尚早に決めつけることなく、1人1人の資質に応じた刺激を与え、つまずきを見逃さずに解決していくことで可能性は広がります。

苦手な生徒さんにはそれを克服するための、数学が得意、あるいは好きで、1つ1つの作業を楽しめる生徒さんには存分にその力を伸ばすための優れた参考書・問題集と学習計画を用意して、他科目と同じく高校数学の土台となる学習項目を万全にバックアップします。

理科について

学習指導要領改定で、最も学習内容が強化された科目です。ネックとなりやすい單元には化学と物理の電流、地学の天体などがありますが、そもそもの問題点は学校で学習する際の、各分野・各単元の順序と導入に関する工夫の欠如にあるように思います。その内容を学習する意義を感じられないまま暗記項目を頭に入れ、計算問題を解く、という方法では積極的な関心は引き出すことが出来ません。各分野の内容を関連付けることはもちろん、各単元の内容が日常や現在の世界にどんな形で関係しているか、進学塾において中学受験の理科を担当してきた経験を活かし、生徒さんの目線に立って豊富な話題を提供、積極的な学習意欲を引き出します。導入に最善を尽くし、その後の計算問題や応用問題へつなげていく、数学と同様のメソッドです。

社会について

中学社会科での学習内容には、高度で重要な項目も含まれます。しかし残念ながら特に公民、日銀の公定歩合操作や国債の売りオペレーション・買いオペレーションといった、経済システムの理解に欠かせない内容、国会・裁判所・内閣の相互関係、憲法を頂点とした法体系の理解など、これらの重要な内容を、学校ではかなりの駆け足で学習して済ませてしまうことが多いのが現状です。

中学・高校をまたいで生徒さんの成長を見守る中で感じること、中学での土台の大切さについては社会科もやはり同様ですが、何を職業として生きていくのか、という選択に際しても社会の理解は不可欠です。国際政治・経済、史学を専攻した経験を活かし、中1、中2で学習する歴史・地理について、中身の充実した内容を理解・吸収して頂き、現代社会への積極的な関心を引き出すことで、高度な公民学習へとつなげていきます。“暗記”科目であるからこそ、機械的な丸暗記ではなく、対象を深く理解し、他の項目と豊かに関連付ける形での“意味”記憶が必要です。そのためのサポートを豊かに、柔軟に提供します。